

校長だより

平成22年7月1日
沖縄県立読谷高等学校
校長 與那覇 健勇

～一学期の締めくくりに～

4月、5月、6月、そして7月早くも夏休みを目前にしている。私も校長に就任して早4ヵ月が過ぎ、この間、生徒はもらろんのこと先生方や保護者の皆様、そして地域の方々にも大変良くしていただいた。毎日が新鮮で充実した日々を過ごさせていただいていることに感謝したい。

入学式、就任式に始まり、6年ぶりの読高に、素晴らしさを増した生徒たちや先生方の献身的な働きに感動している。教育とはまさに生産活動です。日々成長していく子供たちを目の前にして生産の手をゆるめることはできません。読谷高校ではその活動の全てが生徒のために注がれていることを嬉しく思います。

さて、環境が人を作るといわれます。私は校長として常に申し上げていることですが、学校のハード面としては「環境・美化」、ソフト面では生徒の家庭学習を含めた「自主学習」この二つが全ての鍵を握っているといっても過言ではないと思っています。

まず、学校を綺麗にしたい。どの学校よりも綺麗にしたい。その中で生徒の濁りのない真っ直ぐな心が育つのだと思います。そして毎日、欠かさずきれいにする習慣が万事において、辛抱強さの源になります。人間の中に「心」が入れば自ずと行動に表れます。早朝課外や、朝練の生徒たちを毎朝校門で迎えています。生徒たちが登校するその前に、野球部やソフトボール部の生徒たちが学校外の空き缶や、吸い殻、ゴミ拾い、校門周辺の落ち葉掃きなど、学校内外を美しくしてくれています。生徒の中にも学校を綺麗にしたいという心が育っています。「言い訳からは何も生まれない」の言葉ではありませんが、素直な心からはいいものが生まれていきます。明日も掃き清められた校庭でおはようの挨拶が響きます。さらにハード面で特筆すべきはハンドボールコート周辺の道路舗装。生徒総会での生徒からの要望にこれ以上ない形で整備できたのは生徒を思う比嘉事務長の手腕と執拗な県への要請のおかげです。これには校長も感服を通り越して事務長を崇拜しています。

5月24日はPTA総会でした。その日に家庭学習を習慣化させる手立てとして「軌跡のノート」を提供しました。これはいわゆる頑張りノートです。自分が自ら勉強した足跡を残し、1ページずつ増やしていく。その繰り返し。それらの積み重ねで奇蹟を起こそうと命名しました。読高生はとにかく家に帰ってからよく勉強して、頭の筋肉をつけている。頭の筋トレを毎日楽しみながらやっている。そういう学校を目指しています。

また、来る7月28日には「美ら島総体2010」の開会式が行われ、

男女ソフトボール部、硬式テニス、ボクシング、走り高跳びと本校の生徒の活躍が全国に注目される日がやってきます。

「読高プライド」で頑張ってくださいと思います。